

令和2年度  
水産多面的機能発揮対策支援委託事業 事例報告会

# ふるさと川の「高尾野川」を 守るための地域連携



令和3年2月22日

高尾野内水面漁協 代表理事組合長

高崎正風



# 出水市 (鹿児島県)

- 出水市は鹿児島県の北西部に位置
- 熊本県水俣市に隣接
- JR九州新幹線の停車駅
- 南九州西回り自動車道の整備





# 出水市の概要

人口 53,091人

面積 329.98km<sup>2</sup>

水生生物の種類

うなぎ・アユ

鯉・フナ

農畜産物

米・野菜・柑橘

牛・豚・鶏



出水麓 武家屋敷群  
(伝統的建造物群保存地区)  
日本遺産認定 (2019年)

日本一のツルの渡来地  
(特別天然記念物)

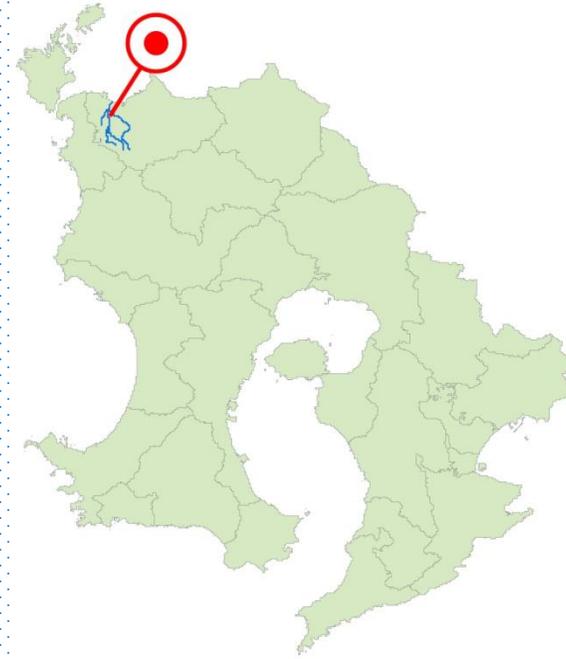
渡来数：17,315羽 (2020年)

渡来時期：10月上旬～3月下旬



# 高尾野川の紹介

- 高尾野川は、出水市高尾野町の中央を流れ、八代海（不知火海）へそそぐ。
- 川の上流は山地にあり、溪流を呈す。
- 中流は平野部にあり、ヨシが茂る。
- 下流は干潟が広がり、流域の田畑に毎年一万羽を超えるツルが飛来する。



# 高尾野川の現況と課題

- 高尾野川は、二級河川で県内では小さな川である。昭和時代は、高尾野川で漁業を営み、生計をたてる川漁師がいたが、河川環境の悪化等で漁獲量が減少
- 昭和40年に高尾野防災ダムが完成し、それ以降、大規模な河川改修が行われ、河川環境が一変。

高尾野防災ダム



河川改修



※こうした背景から・・・

ダムや堰などの大規模河川改修

石礫が下流に運ばれず、泥が堆積

川幅が広く水深が浅い川へ

水辺に草木が生い茂る

漁で生計を  
立てれない

住民の川離れ  
親水性の低下



魚道のない段差工

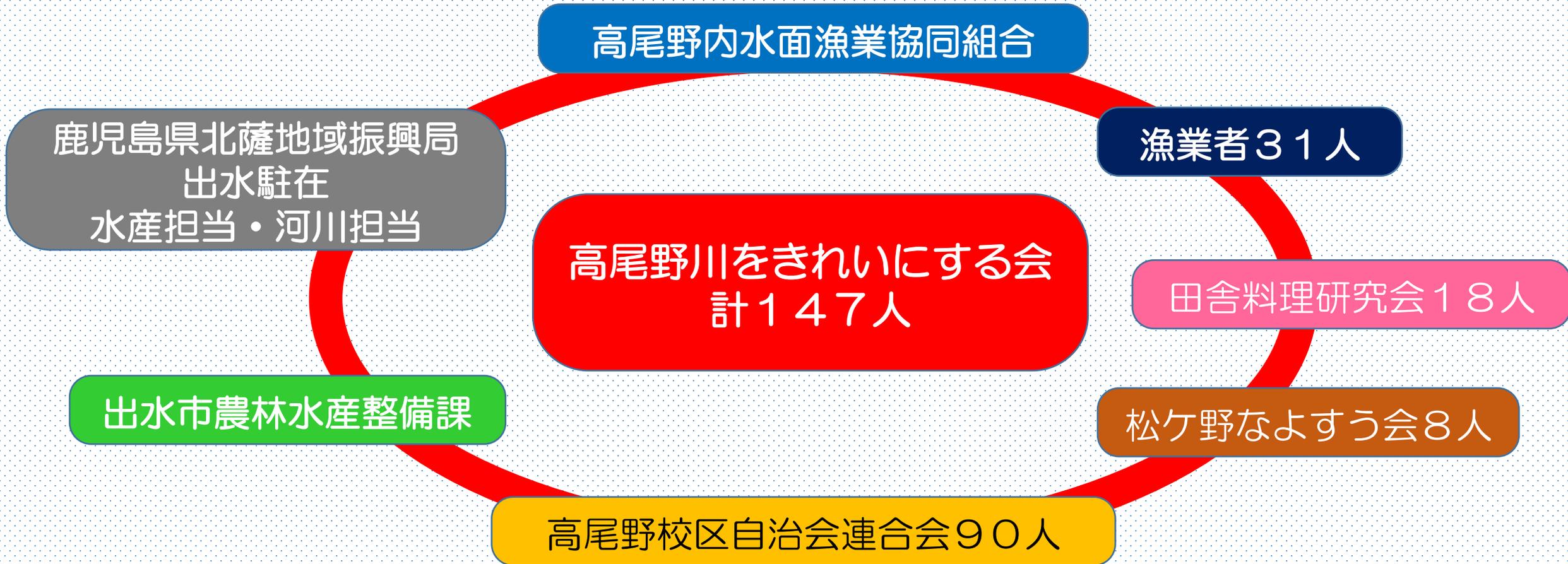


川幅が広く、草木が茂る

# 水産多面的機能発揮対策事業の実施

目標：みんなが楽しめる川の恵みがいただける川づくりを目指す

組織構成図（現在）



# 高尾野川をきれいにする会の経緯

---

高尾野川の魚介類を保全・再生し、「みんなが親しめる川づくり」を目指して、漁業者を中心に多様な主体が集まる「高尾野川をきれいにする会」を設立。

設 立：平成25年5月27日設立

構成員：漁業者、高尾野内水面漁協、漁業者、高尾野校区自治会連合会  
松ヶ野なよすう会、田舎料理研究会 120名（設立当時）

活 動：○川の環境・生態系保全  
方 針 河川清掃（草木刈取）、ウナギの石倉づくり、  
生物モニタリング  
○親水性の回復  
石倉モニタリング体験、魚とり体験学習

# 高尾野川をきれいにする会の経緯

○高尾野校区自治会連合会

高尾野小学校を中心とした34自治会で構成

旧高尾野町のときに高尾野川の河川清掃（クリーン作戦）を実施



# 高尾野川をきれいにする会の経緯

## ○田舎料理研究会

高尾野川中流域の7自治会で構成

平成14年、農産物直売所「山ん神（やまんかん）」を開店

女性を中心として加工食品や田舎料理を提供



研究会のメンバーが持ち寄った料理



審査風景

# 高尾野川をきれいにする会の経緯

## ○松ヶ野なよすう会

高尾野川中流域にある「松ヶ野自治会」の中老有志で構成  
地域コミュニティの親睦と交流を深める  
墓地墓参道の清掃、門松づくり等を実施

※「なよすう会」の名付け由来

出水弁で「何をしようか」の意味

何をしようか → 何（なん）をすっかい → なよすうかい



# 事業の実施内容

○河川環境の保全  
草刈りやゴミの収集



草刈りの様子

# 事業の実施内容

○生態系の維持・保全・改善  
ウナギ生息増殖の石倉蛇籠  
の設置



設置された石倉蛇籠



モニタリング 蛇籠引揚げ

(82) 034811に  
連絡すると謝礼千円が  
支払われる。  
(吉永亮治)

# 事業の実施内容

## ○教育・啓発

漁村の伝統食文化の継承

アユ獲り、カニ獲り、ウナギ獲りの体験・体感学習の実施



アユ獲り（建網漁）



ウナギやナマズのタッチプール体感

# 事業の実施内容

## ○教育・啓発

漁村の伝統食文化の継承

アユ獲り、カニ獲り、ウナギ獲りの体験・体感学習、  
調理体験の実施



アユの背切り体験



アユの串さし体験



塩焼き体験

# 事業の実施内容（出前事業）

市内の高校生を対象に高尾野川の生態系について勉強会を行ったり、調理体験を行ったりしています。高校生からは、「コイが食べられる魚だと知らなかった」、「錦鯉も食べられますか」という感想も聞かれ、若い世代に漁村文化を伝えていくことの重要さを改めて実感しました。



高尾野川の生態系についての勉強会



ウナギ蛇籠の説明



コイの調理体験

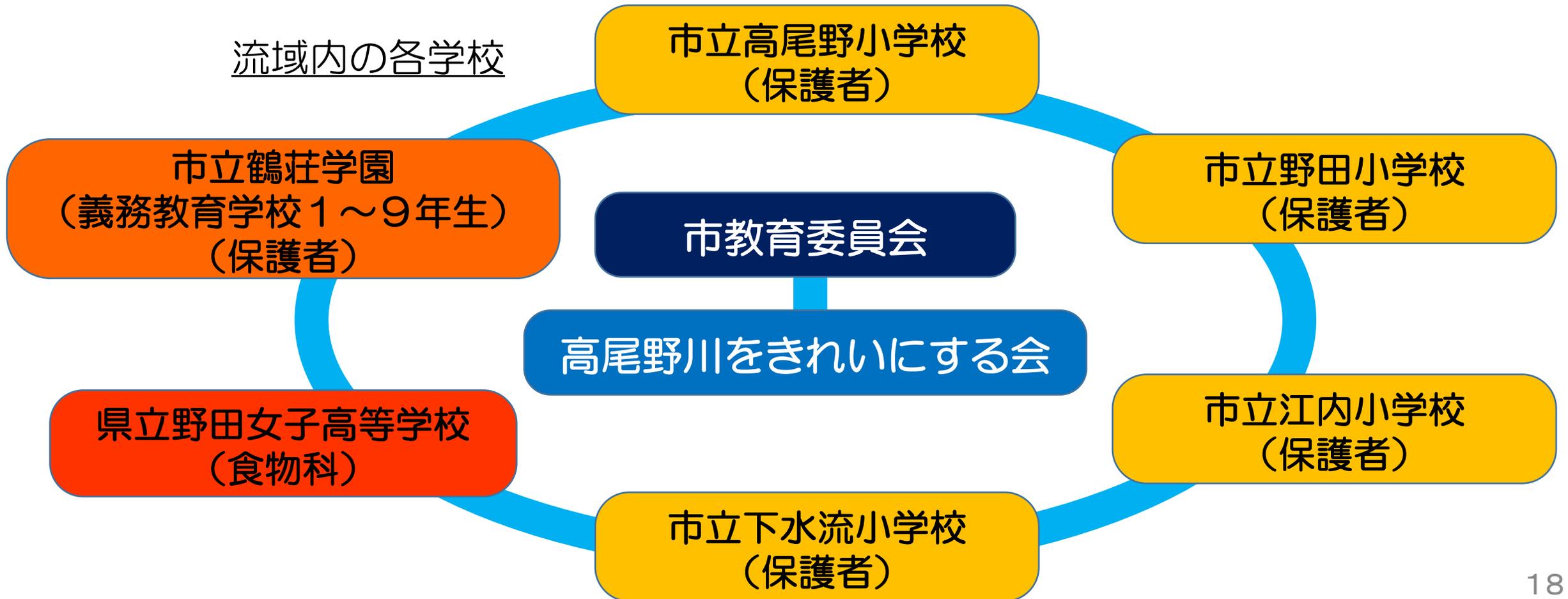


コイ料理の試食

# 学校との連携

- 高尾野川流域内にある6小中高等学校へ事業の主旨を説明し、賛同を得る。
- 市教育委員会の協力を得る。

流域内の各学校



# 体験学習

## ○保護者へのアンケート結果

- ・川で遊んだことがありますか？ 【ある】 90%
- ・川で子供を遊ばせたいですか？ 【遊ばせたい】 83%

## ○子供へのアンケート結果

- ・川で遊んだことがありますか？ 【ある】 82%
- ・川のイベントに参加したいですか？ 【参加したい】 82%

## ○その他アンケートの意見

- 草木が多い茂り景観が良くない。
- 現状では子供を遊ばせるのに不安がある。



親しめる川づくり  
||  
ふるさとの川を守る



# 活動の成果

## ○河川の清掃

清掃活動を継続したことで、ゴミの量が激減



草払いの状況



ゴミ収集 空き缶等

# 活動の成果

- 水生昆虫図鑑の作成  
魚のえさになる生物の紹介。  
高尾野川流域5小学校へ  
1, 200冊配布。

水産庁長官最優秀賞  
「じいちゃんも 遊んだこの川  
次はぼく」  
市立下水流小学校 松尾悠生君  
令和3年1月8日南日本新聞記事掲載



# 底生生物調査

多くの魚や、それを育む水生昆虫(底生生物)を確認することができた  
高尾野川は、まだまだ生き物がにぎやかです。  
高尾野川の魅力を子供たちや市民に伝えていきたいです。



採集状況



10箇所の地点で川幅に沿って3箇所採集

採集した生物の仕分け作業

# 石倉蛇籠の設置

石倉蛇籠はモニタリングにより、ウナギの棲み処や餌場、あるいはカワウからの避難場所として有効であること等が実証されました。そこでこれから石倉蛇籠をどう活かすか、どのように取り組めるか課題になります。川の管理は行政です、その行政の河川管理者にこの成果をつないで多自然川づくりに活かし実行性のある提言を致します。



石倉蛇籠の設置準備



石倉蛇籠引揚げ作業

# 石倉蛇籠から取り出された生物類



仕分け作業



ハゼ



手長エビ



ウナギ



モクズガニ



ウナギの大好物のミミズ  
17~18匹 イナゴ

# 資源回復の取組に取り上げられた記事

厚門 H28年10月6日 第3報野川地区 南日今新聞

出水市の高尾野内水面漁協などは2、4日、養殖ウナギ計約240匹に個体識別チップを埋め込み、高尾野川に放流した。絶滅のおそれがあるニホンウナギの資源回復を目的に、各地で養殖ウナギを放流しているが、その実効性を検証する。

## 放流ウナギ240匹に識別チップ



個体に識別チップを埋め込まれるウナギ  
—2日、出水市の高尾野川

## 資源回復の状況検証

放流したのは大鱈から仕入れた体長平均45センチの養殖ウナギ。生後1年ほどという。目にはピンク色のマークを付けた。腹に長さ5センチ、幅3センチの棒状のチップを埋め込み、1匹ずつ全長と体重を記録した上で川に放られた。捕獲調査を定期的に行

### 高尾野川

い、自然環境に順応して成長しているかを確かめる。高尾野川をきれいにする「高尾野川美化委員会」の呼び掛けで、野田、荏原、正原組合員は「目」マークが付いているウナギを、見かけたら連絡して」と協力を呼び掛ける。対象ウナギは1匹千円で買い上げた。問い合わせは同漁協 0996(3)6034

8. 魚う前田田川田建設 日工業が、地域の環境保全

の面から協力した。高尾野内水面漁協と高尾野川をきれいにする会、4日も個体識別チップを埋め込んだ100匹を含む約240匹を放流。さらに川に設置してあった石籠4基を回収し、中に網入っていたウナギの個体や全長を測り、チップを埋め込んだ。ウナギの個体や全長やエビなどの数も調べた。モニタリング調査は今後も月1回続ける。

(出水市野川地区 成田由理香)

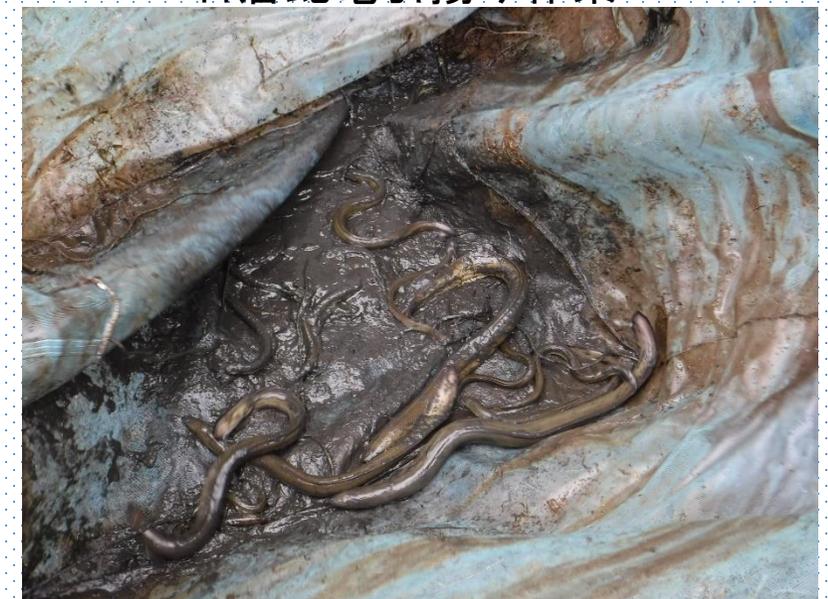


ウナギを放流する子どもたちも  
—5日、出水市の高尾野川



2020. 10. 31

石倉蛇籠引揚げ作業



モジ網から石を取り出した後の生物



2020. 10. 17

重さ976g



2020. 10. 17

銀化したウナギ



子供たちでウナギ放流



採捕されたクロコウナギ (↑: 体長約8cm)



出水市教育長等



学習会



ウナギタグ入れ体験



北薩地域振興局出水市駐在  
参事あいさつ

## 結びに

組織の中に自治会連合会（主に会長さん）の参加をいただいた事が地域連携の最大の原動力となり活動そのものが進展できたことです。それに合わせ田舎料理研究会の女性参加をいただいた事も社会的に意義深いものがあります。そして松ヶ野なよすう会それぞれの立場で活動ができたことは地域連携そのものであると確信致しました。

また、各学校の積極的参加に感謝をいたしますとともに水産多面的事業が川の活動拠点となるよう存続を願うものです。

# うなぎ「とること」全面禁止

川も海も湖沼もどこでも、「ウナギをとること」を禁止されています。とったら処罰の対象となります。

毎年10月1日～翌年2月末日まで

## 鹿児島県内水面漁場管理委員会指示

高尾野川で「とること」も禁止されています。

毎年10月1日～翌年5月31日

高尾野内水面漁業協同組合  
事務所 0996-82-0348

市民の皆さんへのご協力とお願い

ウナギをとっている人を見かけたら、上記事務所まで電話をお願いします。

みんなが親しめ、  
川の恵みがいただける川を目指して



ご静聴ありがとうございました

令和3年2月22日